
第一回留学便り



University of Auckland (Auckland, New Zealand)

February 27, 2016

国際社会学部 ドイツ語専攻 新3年

向井 悠理(PRSP 班)

留学先: オークランド大学 (ニュージーランド)



到着した日のオークランド国際空港。夏時間採用中のため夜 20 時近くでも明るい。

宇野ゼミ生の皆様、ご無沙汰しております。春の足音がそろそろ聞こえてくるかというこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

こちらは夏の終わりのはずですが、まだまだ暑い日が続いております。私のルームメイトは昨日ビーチに出かけて真っ赤に焼けて帰ってきました。私が2月21日の夜オークランドに到着して、明日で1週間になります。様々なオリエンテーションが行われ、時には間違ったオリエンテーションに参加したり予定していたイベントに参加できなかったりと色々ありましたが、来週から本格的に授業が始まろうとしています。最後の安寧の時（といっても予習で潰れつつありますが）であるこの週末で、第一回目の留学報告をさせていただきます。

ニュージーランドは4月頭までサマータイム（こちらではDaylight Savingと言うようです）のため、日本との時差は現在マイナス4時間です。かつては羊の国として日本でも有名でしたが、数年前から乳牛ビジネスに力を入れています。まだオークランド以外の都市に行ったことはないのですが、ニュージーランド最大かつオセアニアでも有数の世界都市であるこの街でさえ、一步中心エリアから出れば山や森、丘など自然に恵まれています。空気も澄んでおり、非常に美しい国です。一方で物価・地価は全体的に東京よりも高く、どんなに安く削ろうとしても住居費として月NZ\$1,100はかかります（2016年2月27日現在1NZ\$=¥75）。

私が通うオークランド大学のシティキャンパスはその名のとおりCityからほど近く、大きな公園を抜ければすぐ街の中心部へ行けます。中心部には買い物に適したいくつかの通りや、街のシンボルであり南半球で一番高いスカイツワーがあります。高さは328mです。大学の学部は人文学部、ビジネススクール、芸術・芸工研究所、教育・社会福祉学部、工学部、法学部、医学・健康科学部、自然科学部の8つ。キャンパスは6つあり、各学部専用の図書館や本屋があるなど充実しています。私は交換留学生の身分のためどこの学部からも授業をとれるのですが「この授業を受けていないとほかの授業が受けられない」といった制約も多く、その

場合はConcessionを申請して必要書類を提出したり、場合によっては試験を受けたりしなくてはならないとのこと。私は人文学部から国際政治の授業を1つとアカデミック英語の授業を1つ、そしてメインのビジネススクールから経済の授業を2つとろうと考えているのですが、経済のうち1つについてConcessionを申請中です。もしこちらが通らなければ、同じビジネススクールの会計学を受講する予定です。また、受講確定しているマイクロ経済の教科書は宇野ゼミ同様スティグリッツとのことなので、帰国後スムーズに次の学習に繋がられるのではと感じています。



（名前や見た目も少しスカイツリーに似ているような）

オークランド大学は日本ではあまり有名ではありませんが、科目ごとの世界ランキングでは10科目がトップ50に認定されています(QS World University Rankings by subject 2014)。例を挙げると、会計・財政学が24位、政治学が26位、法学が28位、などです。学生数も多く、人種も多種多様です。人種に関連して、この一週間で最も印象的だったのは、学部オリエンテーション。感覚的には入学式です。ニュージーランドの先住民族はマオリ族ですが、オークランド大学はマオリ研究や彼らの存在を重要視しており、オリエンテーションでも彼らの様式に則って式が執り行われました。それまでさほどカルチャーショックを受ける体験はなかったのですが、彼らの鼓舞の舞であるハカやマオリ伝統の建築には大きな衝撃を受けました。



大学の寮ではメディア学を専攻するニュージーランド人と人文学部で学ぶ交換留学生のアメリカ人との3人暮らしです。二人とも非常に友好的で、語学という側面で見ても文化の側面で見ても、Kiwi Englishに偏ることなく英語のスキルを上げ、グローバルな視点を意識しつつ学ぶ環境としてこれ以上のものはないと感じます。互いに切磋琢磨していく所存です。ちなみに冒頭に記したビーチで日焼けして帰ってきたのはアメリカ人のほうです。



ほんの1 Semester、4か月程度の短い期間ではありますが、必ず自分の将来や今後のキャリアに役立つと信じて、いただいたチャンスを無駄にしないよう、何度挫折しても起き上がり、努力を怠らず前へ前へと進んでいきたいと思えます。

それでは大学のシンボル時計台の写真を見ながらお別れです。約4か月後、第二回目の留学便りとなる終了報告でお会いしましょう。

Haerera !
(マオリ語でさようなら、の意)